

令和元年度第2回八千代市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定・推進協議会
会議録

【日 時】 令和2年1月7日（火）午前9時30分～午前12時00分まで

【場 所】 八千代市役所 別館2階 第1・2会議室

【次 第】 1 開会

2 議題

- (1) 地域福祉シンポジウムの報告について
- (2) 地域懇談会の報告について
- (3) 市民アンケート調査について
- (4) 関係団体等アンケート調査の集計結果について
- (5) 課題検討
- (6) その他

3 閉会

【出席者】 山下会長，周郷副会長，中澤委員，吉垣委員，栗根委員，横尾委員，福田委員，吉野委員，渡部委員，勝田委員，唐澤委員

【事務局】 福祉総合相談室 村田室長，末友主査，小野主査，品川主査補，宮澤主任主事
八千代市社会福祉協議会 村田局長，新井課長，槌田主事

【会議公開・非公開の別】

公開

【傍聴人の人数】

1名

【末友主査】

定刻を過ぎましたが、令和元年度第2回八千代市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定・推進協議会を開催させていただきます。本協議会は八千代市審議会等の会議の公開に関する要領の規定に基づき、会議を公開するとともに、会議録作成のため会議状況を録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。なお、本日1名の方の傍聴の届出がありましたので、お知らせいたします。傍聴人の方にお知らせいたします。会議資料の閲覧については、八千代市審議会等の会議の公開に関する要領第7条に規定してありますとおり、会議中のみ閲覧に供し、会議終了後に回収させていただきますのでよろしくお願いいたします。傍聴人が会議資料の写しの交付を希望する場合には、情報公開条例第18条第1項、費用の負担の規定に基づき、費用の徴収を行いますのでよろしくお願いいたします。本日ご欠席の委員の方のご報告をさせていただきます。青寫委員、秋吉委員様より欠席のご連絡をいただいております。続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

本日の協議内容をご説明させていただきます。事前送付させていただきました資料をもとに、(1)地域福祉シンポジウムについて、及び(2)地域懇談会についてご報告させていただきます。また、集計・分析の途中ではございますが、(3)現段階での市民アンケート調査について、及び(4)関係団体等アンケート調査について、集計結果をご報告させていただきます。(5)課題検討につきましては、本計画骨子案策定に向けて、本市における重点的な課題について、委員の皆さまよりご意見を伺わせていただきたいと思いますと考えております。それでは山下会長、お願いいたします。

【山下会長】

どうぞよろしくお願いいたします。地域福祉計画は、20年前の2000年に社会福祉法で法定化され、各自治体でこれまで8割弱ぐらいが計画を策定するに至っているという状況ですが、八千代市においては今回初めて策定されます。地域福祉計画に盛り込むべき事項としては、ボランティア等の住民参加の促進、介護保険の導入、障害者の総合的な法律や子どものことも含めた福祉サービス、地域で利用する福祉サービス、住民参加についても盛り込むべき内容となっています。また、最近では貧困や生活保護権の課題も散見されているところで、生活困窮者自立支援方策についても、この地域福祉計画では約半数の自治体で盛り込まれていると承知しています。

また、平成30年4月から計画に盛り込むべき事項とされているのが、高齢者、障害者、子ども、その他の福祉に関して共通的に取り組むべき事項で、自治体の約8割ぐらいがついています。この20年で、先行して計画をつくっている自治体ではいろいろなりニューアールを繰り返しながら、定型化されていない計画ではあるのですが、進められているような状況です。さらに、包括的な支援体制と整備という少し難しい話なのですが、社会福祉法の106条で、高齢、障害、子どもといった制度で割らずに個人の家族を地域の中で見ていくこと、

そのための行政の相談の体制をきちんと整備しようということ、これは住民側というよりもむしろ、行政側に課されてる課題ですが、包括的な支援体制の整備ということも盛り込むべき事項とされていて、これは自治体のうち大体4割弱ぐらい出来ているとされています。このような20年間の中、八千代市では初めて地域福祉計画をつくるということなので、地域福祉計画は参加して下さっています委員の方々のご意見を事務局で伺いながら、計画に盛り込んでいくことが重要だと思います。今日は短い時間ではございますが、いろいろなアンケート調査や事務局が調査されたデータによって八千代市の状況が少し見えてきたように思いますので、委員の方々にご意見を伺うというような会として、課題を焦点化させるというような時間になろうかと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議題(1)地域福祉シンポジウムの実施結果について、事務局より報告をお願いします。

【榎田主事】

社会福祉協議会地域振興課の榎田と申します。着座にて失礼いたします。資料1と資料6をあわせてご覧ください。八千代市地域福祉シンポジウムは9月21日(土)、13時30分から16時に八千代市市民会館小ホールにて開催いたしました。このシンポジウムは子ども、高齢者、障害のあるなしに関わらず、地域に暮らす人が世代や分野、支え手、受け手といった立場を超えて、ともに支え合う地域共生社会の実現に向けて機運を高めること、そして地域福祉計画及び地域福祉活動計画について市民の皆さまへ理解と啓発を目的とし、開催いたしました。内容につきましては、前半は山下先生より、「地域共生社会の実現に向けた『我が事・丸ごと』の地域づくり」をテーマにご講演をいただきました。地域福祉や地域共生社会というのはなかなかイメージしづらいものなのですが、わかりやすくお話ししていただき、自分にも関係していることが伝わるご講演でした。山下先生、ありがとうございました。後半は、パネルディスカッションとして山下先生にコーディネーターをお願いし、市内においてさまざまな分野で活動する5名の登壇者の活動について発表とフリートークを行いました。登壇者は、重度の障害があり作業所に通いながら市内の学校で講師として福祉のお話をするなど、担い手としても活躍されている小林健一さん、大和田中学校の教頭先生で、地域において学校や生徒が何をできるか考え、実践している竹内亨さん、本協議会委員を務めておられます、八千代台東支会の会長で地域の課題を把握しさまざまな分野において住民主体による支え合い活動を実施している吉垣信義さん、地域共生社会の実現を目的にNPO活動を展開しており、自身も4人の子を持つ母親として若い世代からの支持も受けています宮本亜佳音さん、廃棄Tシャツをリサイクルさせる事業を通じて環境や人権に関する活動を展開しており、障害者や生活困窮者に対しても雇用や社会参加の機会をつくる活動をされている梶原誠さん、この5名に発表をいただきました。それぞれの発表内容につきましては、当日の資料をご覧ください。シンポジウム当日は141名のご参加がありました。詳細につきましては資料6をご覧ください。また、参加者へシンポジウムにつ

いてのアンケートを実施しました。さまざまなご意見をいただきましたので、ご覧いただければと思います。シンポジウムのまとめですが、地域で起きていること、人と人の支え合いについて関心を持てる方を、またそういったことを考えられる機会を増やしていくことが大事だと思います。それには、課題を持つ人が一体何に困っているのか知ること、その課題を自分に置き換えて考えられるかが重要になると思います。登壇者の、当事者である小林さんが、障害があっても彼らしく生きていること、みんなと変わらない普通の市民だという言葉は、参加者の心を動かすものがありました。また、学校、自治会やNPOといった市民活動団体、企業、それぞれが持つ理念やできることで地域貢献していることを知り、自分でできる範囲のことで、地域のために、人のために何かやりたいと感じた参加者も多くいらっしゃいました。今回のシンポジウムで地域や人とのつながり、支え合い、助け合いについて学べたシンポジウムになったと思っています。報告は以上になります。コーディネーターでありました山下会長より、補足等あればお願いいたします。

【山下会長】

ありがとうございました。この地域福祉計画の策定にあたって、広く市民に呼びかけてこうしたシンポジウムを開催することになりましたが、なるべくわかりやすく教えてくださいということなので、私はこの資料の資料1の4ページにある、ご参加くださった市民の方々が、この真ん中の円にして、個人、あるいはその方のご家族がいるわけですが、さらにそこで4つの資源があると言いました。その左上が行政の資源、右側が非営利の資源、左下が営利の資源、そして右下が個人に関する資源、この資源の中に取り囲まれて生活をしているのですが、これをそれぞれの方々のご自身に当てはめてみると、一人暮らしだったり、高齢のご夫婦だったり、子育てだったり、そうしたときに行政の政策、あるいは福祉サービスがどのように届いているか、あるいは届いていないか。営利のサービスというのが身近にあるか、あるいは買い物に行くにも歩いていけるような状態になってきたのがこの数十年の動きなのか。そして人によっては、この右下の個人に関する資源というのが薄かったり、あるいは軋轢があつたりして、圧倒的に個人に関する支援のストックが薄い方々が比較的増え始めている状況もあるのではないかと。そのために、すべきことってというのが、いわゆる行政が福祉サービスを用意するってということだけで解決するというよりも、非営利の社会資源という右上の資源を、市民の参加の中でどこまでつくっていきけるかっていうことが地域福祉の挑戦だ、みたいな話をしたところでございます。今回の登壇者の方はふるさと学舎ですとか学校とか支会の方、あと当事者の方ですけども、先ほど申し上げた地域福祉計画というのが諸計画、子どもとか障害とか高齢の計画の総合化を図るってということになるとすると、このシンポジウムの次の動きとすると、高齢者の相談機関、地域包括支援センターとかあるいは生活困窮者の機関とか、あるいは民生委員さんとか子育ての保健師さんとか、そうした方々が市民の相談をどのように受けていて、どの辺が解決できていないのかっていう、こんな話も実は聞きながら、どういう方が八千代市に暮らしていて、どうい

う支援、あるいは助け合っているのが必要なのか、みたいなことは次また考えなければいけないのかなというのが、そのときのシンポジウムしながら感じたことであります。シンポジウムに登壇された吉垣委員、一言お願いいたします。

【吉垣委員】

よろしくお願ひいたします。最初は何がなんだかわからない状態で社会福祉協議会から依頼されて、もう少し皆さんのご意見を聞いて、我々、支会のメンバーももっと細かく追究して、こういうふうにしたほうがいいのかと、あとで思いました。少し準備期間が短かったものですから、これから先、もしほかの支会の方をやるようであれば、前もって準備期間を最大限にとって実施したほうが、もっと来場者の方に届くのではないだろうかというような話をしております。

【山下会長】

どうもありがとうございました。ほかにご意見とかご質問などございますか。

【吉野委員】

このジェノグラムはとってもうまくできていると思いますが、家族関係と地域の資源のところに、介護保険サービス、生活困窮者支援制度、権利擁護センターとありますが、障害福祉サービスはどこに入るのでしょうか。

【山下会長】

すいません、これは作成例なので。今度、保育園どこにあるのって話になってくるので。

【吉野委員】

そうですね。そういうことがちょっと気になるので。これはあくまでも例として、私たちがつくっていく中でも、学校がどこへ入るのかとか幼稚園、保育園がどこへ入るのかとか、地域のサークル活動がどこへ入るのかという、このゼロから考えていくことが必要ですね。

【山下会長】

どうもありがとうございます。つまり、この地域福祉計画をつくりながら、こうしたジェノグラムが外に出ていくときは、いろいろ配慮しなければいけないと、そういうことですね。つまり、全市民に見てもらってすぐに役立つような資料が1枚でつくれるかっていうとそういうわけではないってことですね。

【吉野委員】

難しいですね。

【山下会長】

全部載せてしまうとわからなくなってしまうからね。ほかにございますか。

【中澤委員】

今回も医療系として歯科医師会の私しか参加していませんが、このジェノグラムの中にも先生の発想として病院ってあるのですけれども、病院は病院で、それ以外にも医師会は医師会、薬剤師会は薬剤師会、歯科医師会は歯科医師会で資源を持って、いろいろ活動しております。さらにはですね、八千代市の医師会、歯科医師会、薬剤師会、あとは訪問看護ステーションさんとか、行政が連携した活動を立ち上げております。そういうところも含めて、今後は先生方の構想と一緒にタイアップしていければいいのかなと思いますし、行政の中での連携というのもしっかりしてほしいなと考えております。

【山下会長】

ほかにございますか。

【勝田委員】

地域懇談会に参加させていただいて、あるグループのいろんなお話を伺ったのですが、いろんな福祉関係の携わっている方々のグループを、どうリンクしていくかというか。先生のお話の中にもありましたけど、同じ舞台でもって話し合いをする、その舞台をどうつくっていくかということが今後の大きな課題だと思います。また具体的にどういうことを目標にして、それをいつごろまでにどこまでやっていくのかというような、ある程度数値化した、具体的な目標を掲げなければ、やはり抽象論に終始してしまうような感じがしてならなかったです。具体性をどうこれから求めていくかということが大事だと思いました。

【山下会長】

ほかにございますか。

【福田委員】

福田です。具体的目標として、会（組織・団体）レベルの、例えば、障害計画であったり、介護計画だったり、それぞれ目標が設定されていて、それに対して行動する今の流れがあります。今回の地域福祉計画の中で、具体的な目標、数値を取るべきなのか、それともそれは取らずに、地域特性を踏まえた包摂的な位置づけの計画にとどめておいて、具体的な目標については各会に持って行くのかの方針を、まず決めて行く必要があると思います。そこから、

計画を、どういうふうに進めていったらいいのかに話が行くと、今のお話し聞いていて感じました。

【山下会長】

ありがとうございます。ほかはございますか。

今の高齢、障害、子育て等で盛り込まれている、すでに計画化されているものはそれぞれの諸計画の中で進めていきますが、共通して取り組むべき事項というものについては、次回以降の協議会で事務局から提案いただければというのが、今のご意見への1つの回答かと思います。一方で高齢者のデイサービスと障害の方も利用できるような共生型サービスみたいな発想も出ていますが、それは政策として出ていたり、あるいは運営者が積極的にやっているという側面もあるので、なんでもかんでもそれをやりましょうっていうふうになるのかということ、またそれは別で。経営的な側面だとか利用者の特性だとか状況によってまた違うので、そういう意味で数値的目標っていうものがどうつくれるかっていうことが、一方で課題だろうと思います。一方で福祉サービスの適切な利用のために、どのような取り組みをしていくのかだとか、包括的な支援体制の整備のために何をどのように進めていくのか、あるいは住民参加の促進というものを進めるためにどのような基盤をつくって舞台を整えていくのかということ、抽象的でなく具体的に書けることもありそうなので、またそこは皆さんのご意見をいただきながら事務局のほうでまとめていただくのがよろしいかと思います。

先に進めさせていただきます。議題(2)地域懇談会の報告について、事務局からお願いします。

【槌田主事】

引き続き私からご報告いたします。資料2と資料7をご覧ください。地域懇談会は、地域の皆さまから地域の現状や課題について掘り起こし、解決策について意見を出し合い、それを計画へも反映させるために地域の生の声を伺う場として開催いたしました。市内7つの圏域ごとに開催し、意見をお伺いいたしました。当日は一般市民から支会、民生委員、市民活動団体など、地域で活動されている方、また高齢者や子ども、障害者の福祉関係の職員等のご参加がありました。内容としては、班に分かれて参加者それぞれ付箋に意見を書きいただき、整理しまとめていくKJ法を用いて行いました。テーマは、地域のいいところ、地域の課題、また課題で出た中から2、3個程度特に解決したいことを選び、解決アイデアについて考えていただきました。資料2には各圏域でどんな意見が出たのか、そのまま載せさせていただきます。本日お配りしました資料7は各圏域ごとにまとめましたので併せてご覧いただければと思います。各圏域の地域懇談会で出た課題から多く出た意見や共通しているものを、市全体の課題としてまとめました。どの圏域でも多く挙げられていたのは、地域のつながり、人のつながりです。若い世代との世代間交流ができていないことや、外国

人のマナーや交流がないことが地域のつながりの課題として挙げられています。人とのつながりでは近所付き合いが希薄化していることや一人暮らし高齢者や認知症高齢者、引きこもり、ひとり親世帯、障害のある方など、社会的に弱い立場の方が地域から孤立していることが挙げられています。また、つながりをつくるのにみんなが集まれる場が身近にないことなどが挙げられています。その解決策として、色々な人が交流できるイベントの開催や、必要な人に伝わる、または知ってもらえるような情報発信の工夫、また身近で参加できる、集まれる場づくりなどが挙げられました。次に多く挙げたのは、移動です。場所までの距離が遠かったり、また車や公共交通機関などの足がなかったりすることから、買い物や通院に困ること、また道が狭い、補装が悪いなど道路環境の不便さが挙げられました。その解決策として、移動販売や送迎バスなどの足となる交通機関の拡大、道路の整備が挙げられました。また高齢者についても多く挙げられており、地域で暮らす中で買い物やゴミ出しなど、高齢になることで難しくなっていることに対する助け合いの有償ボランティアといった生活支援の必要性や地域の見守り、交流の場が挙げられました。また子どもに対するご意見も多く挙げられました。子どもとの交流の機会が少ない、不登校や貧困家庭に対する支援が少ないなどが挙げられました。その解決策として、サークル活動や親子参加イベントの開催、学校に行けない子の居場所づくりなどが挙げられました。また福祉に関することのほかに地域の課題として、空き家が地域に増加していることが挙げられます。その解決策として、空き家を活用した居場所づくりや交流イベントの開催等が挙げられました。また災害について避難所が遠い、行けないなどが挙げられていました。その解決策として、避難が難しい要配慮者への支援や、普段からの声かけ、つながり等も挙げられていました。今回地域懇談会を開催し、実際に参加者の生の声を聞いてみて、どの圏域も地域住民から施設の職員などいろいろな立場や世代の方が参加したことで、それぞれ今活動していること、また話をして気づいたこと、お互いできることを参加者同士で深め、活発な意見交換がされた地域懇談会となりました。今回、圏域ごとに地域懇談会を開催しましたが、ここで出た意見のすべてが地域のすべてではないと思います。圏域によって、また圏域の中でも地域を細かく見ると、いいところや課題が違うところもあるかと思います。さまざまな方法で伺った市民の意見をあわせて参考にしながら計画づくりをしていけたらと思います。地域懇談会の報告は以上になります。

【山下会長】

何か質問、ご意見ございますか。

【中澤委員】

先生に教えていただきたいのですが、この間テレビで見ましたら、どこかの島の高校の生徒数がどんどん減っていく中で、全国に募集をかけて地域全体を学校にして、その地域のお年寄りの方たちとかと交流を持ちながら教育していくというのがありました。資料2を

見させていただいたところ、地域によっては先生の大学も含めて大学との交流があつてすごくいいというふうに評価している方もいらっしゃいました。資料1でも、中学校の教頭先生の講演の中で、高齢の方たちの施設に生徒が伺って、いろいろ一緒に交流を持っているとありましたが、今の時代はそういうことを積極的に行政も絡んで行っているのか教えていただきたいです。

【山下会長】

私もテレビで見た程度ですが、島根や自治体の人口が減っているところで文化になっているみたいですね。たまたまそこに出張したところにその学校があつて、町の人がこぞって大切にしていまして、そこに引きこもりの子や何か課題がある子が通っているのか聞いたところそういうわけでもなく、自分で選んで全寮制に入るという取り組みがありました。各大学も地域連携という言葉が大学行政の中に入っていて、それぞれ所属・所在する地域や、あるいは協定を結んで、自治体と大学の資源を地域に存分に提供しなさいというような流れもあるので、そうした教育機関との連携も非常に重要なのかと思います。

【中澤委員】

行政の方に教えていただきたいのですが、資料7には参加者の内訳が出ています。場所によっては医療者が参加しているところもありますが、こういう懇談会をやりますというのは、なにかそういうお示しはあったのでしょうか。私も役所部会で会議をしているので、ぜひ参加したかったなと思いました。

【新井課長】

地域振興課の新井と申します。お声がけがいかなくて申し訳ございませんでした。今回は地域の方、特に社会福祉施設等々には訪問させていただいたり、事業者協議会やケアマネネットワークなどの団体にチラシを配布しておりました。もう少し医療機関のほうにも積極的にチラシをお配りするべきかなと思っておりますので、今後は積極的に回らせていただきたいと思います。今回の地域懇談会は直接チラシを配布する場合と、社会福祉協議会のホームページやSNSなどの媒体を使い、募集をさせていただきました。

【中澤委員】

特に北部の方たちですと病院が遠いとか、訪問歯科診療を利用するというを書かれた方もいらっしゃったので、我々も参加したほうがいいのかと思いました。今日は残念ながら参加してないのですが、特に薬剤師会はすごく優秀な会で、各地域で代表者がいらっしゃって、その人が中心となっていていろいろ回す活動もできていたり、訪問薬剤師会もあるみたいなので、そういったものをうまく利用されるとよろしいのかなと考えました。

【新井課長】

ありがとうございます。

【山下会長】

こういった座談会とか住民講座に医師の方が来てくださると住民は大歓迎なので、本当によろしくお願ひします。様々な地域でいろいろ検討してみても、医師の方が積極的に入ってくださっているところは、本当に元気な街になっているところもあります。

ほかにございますか。

【吉野委員】

八千代市も高齢化のとても進んでいる地域や児童の割合の多い地域とか、それぞれの地域によって特色があると思いますが、それが客観的なものとして数字的にわかってくるといいなと思います。高齢化率が進んでくると、どうしても児童中心に考えますけれど、学校が空いてくるというような問題もありますので、空き学校を利用して、地域全体で、高齢者や障害者、障害のない方たちや困窮されている方たちの地域でのコミュニティみたいなものが核になってくるといいなと思います。ここに学校関係の方もいらしていただいて、児童の率とか高齢化率などもわかると、地域福祉、八千代市全体のことがもっとはっきりと見えてくるような気がしますので、そういう客観情報もあると必要かなと思いました。

【山下会長】

計画策定の基本的なこととして、おっしゃるようなデータが必要になりますが、そこで、それぞれの地域の特色や身近な圏域というものをどう考えるか、どこかで議論しなくてはいけないと思います。解決しにくいかもしれませんが、行政計画で高齢、障害、子育ての各分野の計画に定めている圏域と、福祉以外の計画等に定めている圏域と、自治会、町会とか小中学校区というエリアと、民生委員・児童委員になっていらっしゃる単位という地域というものがあり、行政やそこに暮らしている人々との兼ね合いもあるので、結論的にすっきりしないかもしれませんが、そこを1回議論しておかないといけないと思います。

ほかにございますか。

【勝田委員】

高津・緑が丘地区の地域懇談会に参加しましたが、喫緊の対策として、高齢者の見守りや居場所づくりをどうしようとか、地域の情報交換の場をつくりたいなどの意見が出ました。どこかで支えてあげたい、高齢者を見守ってあげたいと思うのですが、どこにどういう方がいらっしゃるかわからないということがネックになっています。民生委員の方が持っていますが、これは守秘義務があつて公開できません。また一方で住民も、市の保護で最大限に助けてほしいと思う方は登録をしてください、ただし住所、家族歴は公表されずと呼

びかけたところ、非常にその反応が悪いそうです。住民のほうも自分のことは自分でやるよという意識もあるようだし、助けたいと思いつつも、どこにそういう方がいらっしやるのかわかりにくいというネックがございます。

高齢者の居場所づくりとしては、緑が丘地区は長寿会が非常に活発でして、約今 250 名近い高齢者の方が 14 のサークルで活発に活動して、高齢者の受け皿・居場所として、素晴らしい活動ができていますので、これがもっと市全体に広がっていけばと思います。そういった居場所として空き家をうまく活用できないかと思ってこの間シンポジウムに行きまして、空き家を市が仲介して、実際に活動したいというボランティア団体と大家を結びつけるような方策はないものでしょうかと市建築指導課のお話を伺ったのですが、市としてはそこまではできないということでした。ですからその空き家があっても、それを実際に活用する手立てというものがまだ具体的に何も決まっていないような状態であることも、これから解決すべき問題であろうかと思えます。

また、自治会長の任期が 1 年というのが最近の自治会の実体で自治会長が 1 年ごとに変わり、自治体と連携をしようと思っても、毎年課題が翌年送りになってなかなか実現していないので、自治会よりもむしろ、5 年、6 年と任期が続いている自治会の自主防犯や自主防災会との呼びかけのほうがいいのではないかというような課題も出ました。本当は自治会が一番地域の皆さんに密着した情報を持っているのしょうけども、会長が年々変わって継続的な仕事できていないという課題が浮き彫りになった会でもありました。

【山下会長】

ご指摘の通りだと思います。なかなか解決しませんが、おっしゃるようなことがすべての課題ですよ。

ほかございますか。自治会とかのお話はいかがですか。

【栗根委員】

八千代市全体で人口の 57 パーセントしか自治会に加盟していないということで、それを 60 パーセントなり 65 パーセントなり、引き上げていくことが、今私なりに課された課題になっています。勝田委員が先ほど言われたように、自治会長が 1 年交代という自治会が半分以上あるということで、なるべく 2 年、3 年していただけるように、今お願いしているところですが、規程上そういうふうにはできないということがありました。むしろ先ほど言われたように、自主防災会や防犯組合のほうはまだ年々変わらず、福祉関係とかそういったものが頭にあるようです。ですから自治会長はあまりにも福祉関係などに対して認識が低いのではないかと思っていまして、去年の 5 月に八千代市自治会連合会の会長になったのですが、会長会議ではそういった、なるべく任期をのばして、福祉関係に力を入れてほしいという話はしているのですが、なかなかできていないところです。ですからこういった福祉計画の策定について、色々な住民の考え方などを今後考えて広めていきたいと思っています。

ので、もうしばらくお時間をいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

【山下会長】

どうぞよろしくお願ひします。

ほかございますか。

【渡部委員】

八千代市長寿会連合会の副会長と緑が丘長寿会の会長もしているのて、高齢者の課題として資料2と資料7を拝見しましたけども、高齢者の方はこの5年間で147名の入会がありました。千葉県全体の加入率はわずか5,6パーセントで、八千代市は2700名の長寿会の会員さんがいますけれども、八千代市の65歳以上の人口から言うと、6パーセントぐらいです。緑が丘地区は65歳以上の高齢者は1500名近くいますが、緑が丘長寿会に関して言えば241名ですから、だいたい18パーセントぐらいの加入率で、今年度も既に4月から9か月間で、12月までで23名の入会の方が入っております。お一人お一人と必ず面談をさせていただくと、皆さんが異口同音に言うのは、1つ目は健康寿命を延ばしたいですと。平均寿命ではなく、自立できる健康寿命を延ばしたいと。2つ目はコミュニケーションを取りたいですとおっしゃいます。この課題に対して、緑が丘だけの問題ではなく大和田、阿蘇、勝田台、八千代台も、長寿会の会長やクラブの会長も積極的に情報発信して歩かないと、そして面談をしていかないと、どんどん孤独死なんかが増えていくと思います。5年前に緑が丘長寿会の会長をお引き受けしたときに、ちょうどテレビで孤独死110番という番組をみたので、松戸の常盤平の自治会長に電話して、常盤平団地訪ねました。その自治会長さんは、10何年間くらい常盤平の自治会長を長くやっているから、隅から隅まで全部わかっているということで、空き部屋を利用してそういったコミュニティの場所をつくったということでした。孤独死110番という喫茶店もみんなで作ったところ、3年も5年もたってから死体が見つかったということは無くなったそうです。死ぬ人は減らないけども、わずかな期間で見つかるようになったというような話をして、やっぱりそういうコミュニティサロンをつくるというのは大切だなと思っています。空き部屋の問題もいろいろありましたけども、本当にそういうこと大事だろうと思うので、上に立つトップが手の届くようなことを考えていかないといけないだろうと思います。年末に県老人クラブ連合会から紹介がありまして、総合福祉学部の大学生が老人クラブの魅力という卒論を書くということで緑が丘を訪ねて来られまして、老人クラブに入る前と入ったあとの変化を書きますと各サークルを撮影していかれました。ありがたいことだなと思っています。よろしく、ひとつお願ひしたいと思いますし、私は必ずやればよくなるだろうというふうに、長寿会の会長自身がある程度積極的に動かないと、待っていても人は減るだけだろうと思っています。よろしくお願ひします。

【山下会長】

ありがとうございます。地域福祉活動計画にしっかりと盛り込むような内容でしたが、一方でそうした取り組みを地域福祉計画でどのようにサポートするか、位置付けるかというのにも必要な議論になります。

ほかございますか。この地域懇談会の報告書も地域福祉計画と地域福祉活動計画の策定の折に貴重なデータとなりますので、これを引き続き使いながら議論を続けて、あるいは引き続きこの懇談会の経過を追いかけることも必要かなと思っております。

続きまして議題(3)市民アンケート調査について、事務局よりご報告をお願いします。

【コクドリサーチ】

今回のアンケート調査の単純集計結果についてご説明させていただきます。資料3をご覧いただければと思います。まず調査の目的についてですけれども、計画の策定に先立ちまして、市民の地域福祉に関する意識、地域福祉活動の実態などを把握することにより、計画策定の基礎資料とすることを目的としております。調査の概要についてですが、調査期間は10月中の約1か月間で行わせていただきました。調査方法としては郵送により配付・回収させていただいております。対象者は市内在住の18歳以上の方で配付数が3000通、うち宛名不明戻りが8通ございましたので、有効回答者数としては2992通、そのうち回収させていただきまされたのが、1177通ございました。回収率は39.3パーセントとなっております。前回協議会におきまして調査期間を9月中としておりましたが、協議会でのご意見を参考に調査票を再検討したこともございまして、調査期間を10月とさせていただいております。また、回収率39.3パーセントは決して大きい数字とは言えませんが、近年郵送の調査での回収率が低下しておりますこと、また地域福祉計画のためのアンケート調査の他市状況等と比較しますと、平均的な数値なのかなと考えております。調査結果の中身についてですけれども、全ての結果についてご説明することは時間的に難しいので、概要を説明させていただきます。まず1ページ目からの回答者の属性についてですけれども、全体的に女性の回答が多く、年代としましては約半数が60歳以上の方となっております。地域の人口に応じて対象者の方を抽出しております関係で、回収数が少ない地域も出ております。3ページから4ページにかけてですが、八千代市での居住年数は44.3パーセントの方が30年以上お住まいとなっております、10年以上お住まいの方と合計いたしますと、8割を超えております。続きまして5ページ、同居家族についての設問ですけれども、65歳以上の方がおられる世帯が多くなっておりまして、介護を必要とする方がおられる世帯が5.9パーセント、障害のある方がおられる世帯が7.7パーセント、引きこもり等の状態にある方がおられる世帯が1.4パーセントとなっております。この引きこもりの状態にある方というのは、国の実態調査におきまして、多少前の数字ではありますが、15歳から39歳の方の人口に占める引きこもり状態の方がいる割合というのが1.79パーセントであるといった数字もありますので、概ねこういった実態に沿った結果であるのではないかと思います。続き

まして問9の悩みごとや福祉に関する相談先については家族と友人・知人が多くを占めておりまして、相談窓口や各種専門家への相談はあまり行われていない印象を受けました。一方、問10の各種相談窓口の認知度については、認知が進んでいるものも見られる一方、後見支援センターですとか生活困窮者自立支援事業などでは今後、認知活動が必要ではないかと思われまます。続きまして問13 隣近所との関わりについてですけれども、合計いたしますと46パーセント以上の方がご近所の方に相談や雑談などをお答えになっておりまして、話したことはない、ほとんど顔も知らないは合計で9.5パーセントとなっております。一方、挨拶する程度であるも約40パーセントとなっております。問13の1の近所づきあいが少ない理由については、仕事で多忙である、共通の話題がないが多くを占めております。また、近所づきあいはわずらわしいので避けているとお答えになった方が21.9パーセントとなっております。昨今の地域との関係性の希薄化も見て取れる結果となっております。問14 今後の隣近所、近隣とのつきあい方については、合計しますと64パーセントの方が相談や雑談などができるつきあいを望んでおりまして、近所づきあいをしたいと思わないとお答えになった方は3.8パーセントにとどまっていることから、近所づきあいに積極的な気持ちを持っている方は多く、このような方々が交流を持てるきっかけづくりが必要ではないかと思われまます。続きまして問16ですけれども、ボランティアや地域活動について伺っております。ここ5年間でのボランティア、地域活動の経験がある方は約25パーセントとなっております。問16の1、ボランティア、地域活動に参加していない理由をお伺いしておりますが、多忙であるといった理由が最も多くなっております。内容や参加方法がわからない、一緒に活動する仲間がないから、といった理由も多くなっております。活動内容の認知が進み、気軽に参加できる体制を整えば参加する方も増えるのではないかと推察されまます。続いて問17ですけれども、参加したい活動について伺っております。文化・芸術・スポーツなどのサークル活動が最も多くなっておりますが、特にないと答えた方も28.2パーセントおりまして、このような方にも同様に、活動内容等の認知を進めて、関心を持っていただくということが大切なのではないかと考えております。続きまして問18は福祉サービスについてお伺いしております。関心のある福祉分野については、高齢者に関すること、次いで災害時の助け合い活動に関するものが多くなっております。11ページの間14では、今後の隣近所とのつきあい方について伺っておりますが、その中でも、いざというときには頼んだり、相談ができるつきあいを今後望むという回答が多くなっておりますので、災害時や非常時には近隣で助け合いができるとよいと考えている方が多いということが伺えます。続いて福祉サービスについて、問20 社会的な課題についてですけれども、他者との交流がほとんどない、社会的孤立と呼ばれる方について、回答者の方ができると思うことはありますかという形でお伺いしておりますが、積極的に地域の中で挨拶や声をかけ合うようにする、が最も多く、変わった様子がないか日ごろから気にかける、相談できる機関があることを知らせる、と続いております。続きまして問23では外国人の方の暮らしについてお伺いしております。身近な地域に住む外国人の方にとって暮らしやすい

地域にするために大事なことについては、気軽に相談できる窓口を充実させる、が最も多く、次いでお互いの文化を知る機会を増やす、が続いております。日本語習得のお手伝いをする、や、地域活動や行事に誘うなど地域との関わりを深めるも 25 パーセント以上の回答をいただいております。自らや地域で受け入れ、交流を持とうとするという方も一定数おられることがわかります。今後もこのような機運を高めていくことが必要であると思われまます。続きまして問 26、防災活動についてお伺いしております。地域の防災活動への参加については、参加しているが約 15 パーセント、参加していないが約 65 パーセントとなっております。問 27 は災害時の不安についてお伺いしております。家族の安否確認、情報の入手について、避難するかの判断、避難所での生活といったことは不安だとお答えになっておりまして、その他のところに自由回答を記入していただく欄がございまして、そちらでは、ペットがいるために避難所に連れて行けるか不安である、といった意見は多くいただいております。続きまして問 28 ですけれども、災害時に地域のためにできると思うことについては、安否確認や救援物資の区分けで多くなっておりまます。どの項目も 10 パーセント以上の回答を得ておりまして、回答者の方がそれぞれ自分にできることは積極的に助け合おうという気持ちを持っていることが伺えます。続きまして問 29、地域福祉についてお伺いしております。地域福祉課題に対し、地域住民の支えあいや助け合いの必要性について伺ったところ、とても必要だと思うが 50.6 パーセント、ある程度必要だと思うが 42.7 パーセント、こちらを合計いたしますと 93.3 パーセントの方が必要と感じていることがわかります。続きまして問 31 ですけれども、地域の支えあい活動として有効だと思うものについては、気軽に相談できる身近な地域の相談機関、が最も多く、次いで、地域の支えあい活動のための組織や団体づくりが続いております。以上、単純集計の結果をご説明させていただきました。これからクロス集計を行いますことで、年代や地域によって回答の差が出るのかと思っておりますけれども、今回の単純集計結果を簡単にまとめさせていただきますと、まず 1 つ目に地域とのつながりについてです。否定的な意見は少なく、助け合いは必要であるという考えを持っていらっしゃる方が多くなってまいりました。しかし、全国的にも八千代市においても、少子高齢化は進んでまいりますので、居住年数が長く、近隣とのつきあいを活発に行ってきた方々から、新たに移住してきた方や、近隣とのつきあいに前向きではない世代、外国の方などが多くなりますと現在よりも地域へのつながりに関しては希薄になることも懸念されます。2 番目に各種相談先やセーフティネットの認知度についてですけれども、必要となる前から、そのセーフティネットなどの存在が広く認知されまして、いざというときに円滑に支援につなげることができるということが理想ですので、今後さらなる認知や周知活動が必要であると思ひます。3 番目に手助けの必要性についてですけれども、近年地震だけではなく、台風や水害など、さまざまな災害が発生してまいりますので、八千代市民の方も災害時の手助けを必要と感じていることがよくわかる結果でした。また、災害時のボランティア活動の重要性に関する認知も広がっておりまして、災害発生時に自身が被災者となっても、できることは自身で手助けをしたいというお気持ちを持っていらっしゃることもわか

りました。今後はそのような機運をより広げていけることができるように、情報提供や制度づくりなどを行う必要があると思います。最後に全体を通してですが、これから地域活動や地域福祉を推進していくためには、これまでのように自治会、自治会も非常に大切ですが、自治会だけということではなく、それぞれが興味のある分野を通じてつながりを持って、市全体に助け合いの輪を広げていくなど、時代に合ったアプローチもまた必要になってくるのではないかと考えております。以上、簡単ではございますが、アンケート結果についてご説明させていただきました。

【山下会長】

何か質問やご意見ございますか。

【横尾委員】

このアンケートですけれども、実は親戚にアンケート来まして、ちょっとほっといたんですよ。だけど、これは大事だからやってくださいって言って、じゃあわかりました、でもこれ自分でやらなくてもほかの人がやってくれるでしょ、抜粋しているから、みたいなこと言われたんですね。だから、これはすごく大事なアンケートで、みんな一生懸命これに関わることをやっているのだから、ちょっとやってくれる？と行って、わかりましたって書いていたので。この計画はすごく重要だから、広報やちよとかそういうところで広く市民の人に知っていただいて、多くの人に意見を求めるような形ができたらいいなと思いました。親族みたいに、自分忙しいから、ほかの人やってくれるからいいよ、みたいな人がきつともしかしたら、いたのかもしれないので。でも、よくよく考えてみたら、やっぱり自分も高齢の親もいるし、これは大事だよねとか言いながらやっていたのですけれども、もっと広く市民の人に、こういうことをやっているっていうのを知ってもらえたらいいなというのを思いました。以上です。

【山下会長】

どうもありがとうございました。回答率上げていただきました。
ほかございますか。はい、お願いします。

【福田委員】

前回の委員会的时候に、確かこのアンケートの作成にあたって、どういう形で上げていくのですかという質問をしたときに、ほかの自治体とかでも運用されているものを参考にしているというお話を、確か聞いた記憶があるのですが、実際、そのアンケート結果の中で、八千代市独自といいますか、八千代市の特徴としてこういうところがあったという情報がもしあれば、わかる範囲で結構ですので、教えていただければと思うのですが。

【コクドリサーチ】

詳しい分析については、これからクロス集計をさせていただくことで、地域ですとか年齢によって差が出てくるというのはわかるかと思うのですが、今、集計をさせていただく段階で思いましたのは、例えば3ページの間4で身近な地域についてお伺いしているのですが、こちらのグラフのほうが複数回答で伺っているのですが、本来棒グラフにしなければならぬものなのですが、すいません。こちら間違えて円グラフにさせていただいております。こちらの中で小学校区ですとか中学校区とお答えになった方は、やはりお若い方が多かったのですが、自治会とお答えになった方はちょっと高齢の方が多いといった傾向なども出ておりますが、この7つのコミュニティー圏域というのを挙げた方が29.7パーセントと、かなり多くてですね。意外とこういったことが浸透していらっしゃるのだなと。地域に関する意識というのが高いのだなというのは、こういったことからちょっと読み取ることができました。あと、細かい中身については、これからまた地域もクロス集計をさせていただく中で分析をさせていただきたいと思っておりますので、また結果をご報告させていただけたらと思っております。

【山下会長】

アンケート調査実施が遅れたのは、市民アンケートと団体アンケートの精度をもう少し上げたいというふうに、こちらが申し上げてしまって、事務局にご足労をかけてしまったのですが、ほかの全国のいろんな調査にもありますけれども、例えば1ページで先ほどご報告いただいたように、60歳以上が半数だって申し上げましたけれども、若年層だとか中高年層の理解も半数程度あるってということについては評価でき、いわゆるクロス集計にしたときに、市民の参加意欲とかこれからの不安みたいなことも少し見えるかもしれないということ、次の3ページですが、身近な圏域、先ほど圏域の議論をする必要があるかどうかという投げかけをさせていただきましたが、こちら複数回答になっているということですが、身近な地域というのは八千代市社協で自治会のパーセンテージについてどう考えるかっていうこととですね。あと、いわゆる30年越えの方々が4割近くいるってということなので、そうした方々をターゲットにした座談会なのか、30年以上暮らしている方とそうじゃない方っていうとちょっと分け方が雑なのかもしれませんが、そうした方々が最後まで暮らしたい地域をどうつくるか。そして、若い方にとって暮らしやすい地域はなになのかっていう、世代を超えた議論をどのように進めるかっていうようなことかと思っております。4ページをご覧いただくと、世帯構成なのですが、一人暮らし世帯が10パーセントなので、いわゆる八千代市の世帯構造の中でこの調査がどのぐらいの差異があるのかっていうことからすると、ちょっとずれている可能性もあるのかと。八千代市の世帯構造と比較してないのでわからないのですが、そういう意味での世帯構成は参考にならないかもしれないのだけど、特に夫婦のみとか2世代、3世代、特に2世代で親と子っていう、この51.9パーセントの中から何が出るのかというのはやってみないとわかりませんが、少し気になります。5ペー

ジで、ひきこもりの状況にある方っていうのが 17 件、1.4 パーセントの方がお答えをくださっているということなので、アンケート調査なので追跡はできないのですが、このアンケートの最後に、心配なことがあったら相談してくださいと電話番号を八千代市役所と社協とつけていますので、この方々が、もしよければ相談してくださいって投げかけをした調査票にはしたんですが、そうした方々がこうした調査を通して引っかかってくるかどうかということは気になっております。次が 6 ページのところ、フルタイムの方とそれ以外の方という就業構造なのですが、一方で無職の方が、いわゆる年金受給者っていうか高齢世代の話なのか、そうじゃないのかっていうようなことなどが出てきます。あと、相談先等もいろいろ各種調査させていただいたり、12 ページ、13 ページでは今困っていることがありますか。あるいは 10 年後はどうですか。みたいな、時間軸を少し取ってデータを取って見たのですが、これを 14 ページと 12 ページで比較していただくと、特に高齢者の課題かと思うのですが、Hの通院ですとか、Iの日用品ですとか、Mの電球の付け替えとか、その次の庭の手入れというものが 10 ポイント以上、あるいは安否確認の声かけにおいては 28 ポイント以上増加していますので、先ほどの長寿会の活動とかいろいろなことも含めて、中長期的な視点を持った計画策定の意義はこのデータからも少し読めそうかなという気がいたします。で、16 ページをご覧くださいと八千代市で市民の方々が 24.9 パーセントの方、つまり 4 分の 1 がボランティア活動をしているっていうことの評価が、まあまあしているっていうふうに読み取れるのか、もう少し全国平均からすると少ないのか、その辺がよくわかりませんが、思ったよりは数字があったのかなって気がいたします。一方で 29.3 パーセントの方が、16 の 1 っていう 16 ページなのですが、活動に参加する方法がわからないって 235 件、29.3 パーセントも、声かけの仕方によっては活動につながるのではないかと、というようなことも含めて議論ができるかもしれません。そして、ほかの調査機関と独自性では成年後見のところ、24 ページなのですが、ご自身の判断能力が不十分になったときに、あなた自身の財産を誰に任せますかってことで、国の今の流れは家庭裁判所の選任も含めて、親族ではなくて専門職後見が増えている。それが頭打ちの状況になって市民後見の政策を促進しようとしている。みたいな、少し大胆な言い方ですけども、そういうふうに言っているのですが、実際そうなのかなと。ちょっと疑ってこうした設問を取ったところ、実質のところは親族、それも成年後見利用しないっていうポイントが上がったっていうところは想定通りなんですね。だからといって、任せられるかっていったときの家庭裁判所の選任はまた別の話なので。こうしたずれっていうものを、皆さんが財産管理っていうのをどういうふうにするか、あるいは身上管理みたいなものをどうするのかっていうのは、今後の地域福祉計画を策定する際に成年後見や権利擁護のことを盛り込む際の 1 つの参考値にはなるかと思えます。ということで、引き続きまして団体アンケートですね。議題 4 の団体アンケートについて、事務局よりご報告いただいて、質疑応答して、そのあと一旦休憩になります。もう少し、よろしく願いいたします。

【末友主査】

資料5団体等アンケート調査の速報値と、資料8の発送状況をご覧ください。まず、調査票の策定につきましては短期間にも関わらず、委員の皆さまからもいろいろな意見をいただきました。調査票につきましては12月6日に発送させていただきました。発送件数につきましては資料8をご覧ください。339団体に送付させていただいております。事業所、それから重複している場合については主な団体の1か所に送らせていただいております。各分野につきましては資料の通りとなっております。団体の分野については偏りもございませうけれども、今後集計とか分析につきましては、分野ごとに行ってまいりたいと考えております。資料5をご覧ください。本日も報告させていただき内容につきましては12月24日時点で集計したものに基ついてのご報告させていただきます。現在もまだ回収状況続いておりますので、今後改めてまたご報告をさせていただくことになると思います。今回は分野ごとではなく全体の集計数として把握したものを報告させていただきます。まず2ページ目の第1問につきましては、こちらも発送先の分野に偏りがありますので、今後各分野のほうで分析をしてみたいと思っております。設問2の、交流または連携をしている団体がありますかという内容ですけれども、こちらも発送の部分で偏りもありますけれども、実際には子ども会や保育園、幼稚園、学校等と今後関わりたいというご意見を多くいただいております。先ほども世代間の交流というものがありましたけれども、若い世代との交流についての認識は高いと考えております。3ページ目の設問3、優先的に取り組むべき事項という点につきましては、13番の地域住民のつながりづくりというものに多く数値をいただいております。また15番、支援が必要な方を発見する取り組みという重要性のほうも挙げられておまして、潜在的ニーズの把握というのの重要性が伺えると考えております。次のページの第6問ですけれども、包括的な相談支援の仕組みを充実する上で優先的に取り組むべきことは何かということで、質問させていただいておりますけれども、2番のより身近なところで相談できる体制や、相談に結び付けられる体制についての数値が高く、気軽に相談し、支援につながるような連携体制の必要性について認識が高いと考えております。配布資料の5ページと6ページが抜けているということで申し訳ございません。続けさせていただきます。設問6につきましては、包括的な相談支援の仕組みを充実する上で優先的に取り組むべきことは何かという設問になるのですけれども、こちらにつきましてはより身近なところで相談できる、地域で活動している人や事業所などの相談を充実するというに高く数値がおいてあります。設問7につきましては、地域の方が日常生活で困っていることに、貴団体は対応することができていますかという質問になっております。一番多い点につきましては、子育ての悩みとか、あるいは一人暮らしの方の不安など、孤立している方に対して対応しているという団体が多くありました。またそれと同時に、現在対応していないという団体においても、今後対応していきたいと考えている団体がありまして、こちらにつきましては市民アンケートの結果に重なる点がございまして、社会的な孤立に対する寄り添うことの意識の高さというのがみられたかと思っております。

ります。設問8につきましては、地域の支え合いということへの設問になっております。こちらについては、日ごろから地域で活動している団体への調査ということもございまして、身近な地域で積極的に活動が展開されると評価されているというふうにも考えられますが、一方で担い手の負担が増大していることも見受けられます。こちらの1番と6番につきましては、地域住民の我が事として捉えることへの意識の低さが見受けられるのではないかと考えてございまして、今後についてはこちらのほうが課題といえるのではないかと考えております。6ページ目、設問9につきましては、地域の課題や不足していると思うことはどのようなことですか、ということで設問を上げております。まず6番目、そう思わないという方、47の数値あるんですけども、こちらについては子どもの見守りという点で、学校の登下校については、現在見守り活動というのがかなり浸透しているのではないかと考えております。7番、8番については近隣住民や世代間交流などが少ないというふうに感じておられる方が多く、そこにつきましては市民アンケート調査にもございましたが、地域のつながりの希薄さという点では共通しているものと考えております。また、9番の気軽に集まれる場所が少ないということに対しても、市民アンケートの意見にもございました、地域活動に気軽に参加できる体制づくりというものにつながるものと考えております。次のページ、7ページ目の設問10につきましては、活動する上でお困りごとや課題はございますかという内容になっております。2番の新しいメンバーが入らない、4番の高齢化してきているという点につきましては、担い手の不足というものにつながっているものと思われております。次のページの8ページ目ですけれども、こちら設問11につきましては2番のニーズの把握とつながりという点におきまして、今回の団体アンケートの3番の課題と同じ状況が反映されているかと思うんですけども、本市としてはその重点的に取り組むべき点というふうに考えております。9ページ目の設問12につきましては、地域の支え合い活動として有効だというものとはどれかという内容になっておりますが、こちらは市民アンケート調査の設問31と同じ内容として記載をさせていただきました。こちらにつきましては市民と団体の意識の差を確認するものでございます。実際9番目、気軽に相談できる体制につきましては、市民アンケートの中でも44.8パーセントという形で、最も高い結果となっております。また7番の拠点につきましても、市民アンケートでは31.8パーセントとなっております。地域福祉の推進にあたっては重要な点であると考えております。その次の設問13につきましては、協議への参加につきましては6番の結果から、すでに参加しているという点では、ネットワークの構築、意識の高さが伺えるものと感じております。また3番の地域活動を行う場所の提供、それから5番のリーダー養成、9番の成果を発表する場という点につきましては、実際には現在、左側、実施している団体は少ないという状況ですけれども、右側の今後実施予定というところでは増えております。今回の調査の内容によって、負担なくできることでも、団体のほうで地域活動に貢献できるのではないかとということをご認識いただけた調査になったのではないかなと考えております。今後につきましては分野ごとに集計、分析を行いまして、改めてご報告させていただきたいと思っております。よ

ろしくお願いします。

【山下会長】

質問やご意見はございますか。機関・団体が地域福祉について、それぞれの機関・団体がどのようにお考えでいらっしゃるかということについて調査したということになってはいますが、6ページの設問8とか設問9などが、なかなか答えにくい質問になってしまったかなという反省も、どちらとも言えないという数字が多いので、なったのかなという気もしないでもないですし、8ページの設問11のところ、地域共生社会の実現のための取り組みについても、これもどちらとも言えないところが多いので、具体的なイメージをもう少し関係機関とつくっていきっていくことが、どうやらこのデータでは言えるのではないかなということですね。自由記述のほうでいろいろとご意見いただいているそうなので、これも分析していただくことになろうかと思えます。ただ先ほどの市民アンケートでもあったのですが、3ページの設問3の、優先的に取り組むべき事項で、3番に高齢者、障害者などの介護や生活支援が必要だというふうに回答があって、一方で市民アンケートのほうも高齢者部門の福祉がもう少し充実してみたほうがいいみたいな設問ありましたよね。ナンバー3の資料の20ページで、どの分野で充実していないと思えますかという問いで、高齢者に関することってというのが載っているっていう、この数字をどう見るかっていうのは少し、何かお気づきのことがあったらお聞きしたいと思いつながり見ておりました。何かございますか。また、資料のナンバー5の7ページの設問10の、団体の事業・活動の困りごと、課題については、これはいわゆる地域福祉計画や、あるいは地域福祉活動計画や社会福祉協議会のボランティアセンターのほうで、こうしたNPO等をどう支援するかっていう具体案だったり、その仕組みをまた提案していくっていうことが求められる基礎資料みたいなことになるので。とはいえ、運営支援だったりするものでもあるので、個別具体的にしていかなきゃいけないので、やりますって言って、じゃあお願いしますっていう単純なものではないのですが、そうしたこともNPO等にとっては。特にこの設問8、9あたりの支え合いですとか、地域の方については地域福祉計画においてのこうした市民アンケートや団体アンケートを通して進めています、一方で地域包括ケアに関連する生活支援体制整備のほうでも、地域包括支援センター等と一緒にその協議体と仕組みで住民と地域活動していますので、そことの関係も整備するっていうか、そこを盛り込むこともしないと、そこは少しくっつけたほうが行政の負荷がわかれていますけど、一緒にしないといけないところがあるかと思えます。ほか何かございますか。よろしいですか。少し長くなってしまいました、一旦、休憩をして、そのあとまた課題を進めましょうか。事務局へ一旦お返しします。

【末友主査】

5分間休憩をいただきまして、11時15分再開とさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

【山下会長】

では再開させていただきます。ちょっと時間が押しておりますが、皆さんもお忙しいと思いますので、こちらの時計で45分ちょっと手前をイメージにもう少しご辛抱いただければと思います。さて、これから課題検討というところについてですが、まず、末友さんから、これから話し合うことについて説明をしてください。座ったままでどうぞ。

【末友主査】

前半でもいろいろとご意見をいただいております。また、ご報告させていただいた内容のほうで、業務によって把握している状況につきまして、本市の共通する課題を3点にまとめさせていただきました。そちらについてこの30分くらい、委員の皆さまにいろいろなご意見をいただければと思っております。まず1目につきましては、人と人とのつながりというところです。市民アンケート調査においても、地域のつながりの希薄さというものが挙げられました。また、地域懇談会や相談業務においても、社会的な孤立というものが課題として挙げられております。高齢、単身、あるいは配偶者を喪失して孤独を感じている方、病気や障害、パワハラなどによって失職してひきこもり状態にある方、不登校の子どもやそのご家族、インターネットではつながっているけれども、身近な相談者がいなくて日中1人で子育てしているような若いお母さん世代、世代に関係なくて社会との接点がなく孤立した生活となっている方への支援というものについては、必要性についてさまざまなご意見をいただきました。また、時間的にも身体的にも余力がありますというご高齢者の方、地域や子どもたちのために何かをしたいというご意見いただいておりますが、そういう方たちのどのようなことができるかなというご意見についても、お話しいただければと思っております。高齢者や障害のある方との交流が少なく、不便に気づけないという方たちについて、福祉教育の大切さというものが挙げられております。また外国人につきましては、出身国のコミュニティはありますけれども、地域や日本の文化などお互いに知らないことが多く、地域との連携や共有の必要性というものが挙げられております。本市におきましては子ども食堂やサロンなどの居場所づくりというものも、あるいは世代間交流などの活動が行われておりますので、世代間交流、多世代間の交流というものについてご意見をいただければと思っております。2点目といたしましては防災活動についてです。今年度、本市におきましても台風の被害がございました。住民の方の意識についても高まっている状況です。地域懇談会におきましては、京成線が開発された時代にさかのぼって地盤のよさであったり、災害に強い安全な地域であるというご意見もいただきました。また、安否確認や訓練を実施しているような自治会もございまして、地域住民同士の助け合い、あるいはネットワークの構築をする上では有事のときだけではなく、日ごろからの取り組みとして、防災をきっかけにした地域福祉の展開を検討できるものと考えております。3点目といたしましては、身近な地域で気軽に相談できる体制というものを挙げさせていただきます。区画整備されているような新興住宅地、あるいは農村地区ということでは交通の便がまったく異なります。旧

市街地におきましても、車がすれ違えないほど道が細くて、消防車や送迎バスが家までは入れないというような地区もございます。交通環境につきましては、それぞれの圏域の中でもかなりの差がございます。睦地区などにつきましては、学校の近くに消防署、連絡所、福祉施設などもございます。小中学校も地区に1校ということから、地域の拠点になっているというご意見もいただきました。コンパクトシティという考え方もございますけれども、身近な地域についてさまざまな考え方、先ほどからも地域ってということでお話しいただいておりますけれども、本計画を策定する上では検討する必要があると考えております。市民アンケートや団体等のアンケートから潜在的なニーズを把握して、支援に結び付けることの重要性というものも挙げられてございます。今後の地域福祉の推進を図る上で、身近な地域で相談できる場、あるいは気軽に活動できる拠点の創設ということについて、この3点についてさまざまなご意見をいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【山下会長】

事務局からは骨子案を次の委員会以降でご提案することになると思うのですが、開会で申し上げたように、盛り込むべき事項のところ、骨子案に出るのですが、この地域福祉計画、まず行政計画ですね。一方で地域福祉活動計画は住民が地域福祉の推進役となって活動するときの計画になるのですが、その行政計画と住民計画っていうか、そうした意味で何を重点に進めていくかっていうことについて今、末友さんからご説明があったことも含めて、皆さん何かご意見等ございましたらよろしく願いします。

【渡部委員】

よろしいですか。私の住んでいるところはまだ交通の便はいいと思うのですが、緑が丘辺りは。各地区ここに出ていますよね。コミュニティバスだとか地域内のバス、この辺は例えばですが、我々よく使っている富士交通だとか東葉バスってあるのですが、そんなところとも相談したりしながら、そういうことも考えてくれないかなと。これは私も話しかけようと思っておりますが、富士交通だとか東葉バスの社長に話をとは思っていますけれども、例えばですが、八千代市長寿会連合会で何か行事やろうとしてもですね、だんだん減っていく可能性があるのですよ。行けないと。行きたくても行けないとか。それで高齢者はどんどん免許証返上したりするじゃないですか。そうすると矛盾しちゃうわけですね。ですから、市も大変だろうと思うのですが、何か民間の力も借りながら、こういったコミュニティバスをね、安い料金で地域の隅々まで入れるようなことを、できないことはないだろうなというふうに思うのですが、

【山下会長】

特に高齢の方も含めた移動の問題について、どういうふうに地域福祉計画の中で書けるかどうかというご意見ですね。ほかございますか。はい、お願いします。

【吉野委員】

とても難しい計画だと思うのです。上位にあるし、それぞれの障害福祉の計画もあるし、高齢者のほうもあるし、子育てのほうもあるし、街づくりの計画も絡んでくるってあると思うのですが、まず、骨子案つくっていただくっていうか、つくっていかないといけないとしたら、私たちは、八千代市という行政単位をこんな地域にしていきたいんだっていう、まずは目的を明確にすることが、とっても大切だと思います。それから、この地域福祉計画を策定するのは、それぞれが介護福祉の分野であれ、障害福祉の分野であれ、街づくりの分野であれ、それが協力し合って1つの地域福祉計画をつくっていくということを明確にするべきだと思います。それが2つ目で、それからそこには教育も絡んでくると思います。本当に子どもの分野から高齢者の分野から、福祉は文化、文化は街づくりなので、その中に必ず入れておかないといけないのは、防災の街づくりなんですね。八千代市をどういうふうな地域にしていきたいかっていうときには、その目的をはっきり明確にすることと、これは上位計画にあるっていうことと、っていう私たちのその思いをきちんと、目的を明確にしておいて、それぞれの分野で人とのつながりの希薄化とか高齢者の分野だとかコミュニティだとか、孤立しているとか防災だとか相談であるとかっていうのは、移動、道路の幅だって30年前から何も変わっていない八千代市みたいなものもあるので、それはひとつひとつ、どこまで私たち、委員会やれるかっていうこと、また別の問題として、項目を挙げるだけでもものすごく違うと思うんですね。教育なら教育、医療なら医療っていう形で、その項目だけもしっかりしていくべきだと思います。すいません、ちょっと偉そうなこと。

【山下会長】

おっしゃるとおりです。まずはどういう街にしたいかって、どういう計画の目標を立てるかって最初の段階の議論がね、まだ十分じゃないので、そこをつくるってことと、開会でご挨拶申し上げたように、包括的な体制をつくらなければいけないので、各行政計画等の関係のレベルと、実際の実働のレベルでもこういう柱がなきゃいけないっていうことと、福祉計画なのですけども、特に教育行政との関係をつくらないと、子どもの課題、日中の子どもの課題にアプローチできないと、そういうことだと思います。ほかございますか。

【勝田委員】

さっきのアンケートですね、資料の3番ですけども、その最後の設問31にですね、地域の支え合い活動としてあなたが有効だと思うのはどこですかっていう、これちょっとまとめてみますと、要するに場所をつくってきっかけを与えればやりますよというのが答えになるのじゃないかと思うのですね。場所をどう与えるか。そして、きっかけをどう与えるかということ、具体的な項目を掲げていく必要があるんじゃないかなと。今、私、子ども食堂を月1回なんですけども支会として、主催してやっているんですけども、緑が丘ですね。これをやっていますよという話を伝え聞いて、お手伝いをしたいとか、それからうちの孫を

連れて行っていいだろうかとか、そういったのが徐々に集まってくるという、やはり場所があっけきかけがあると、集まってくる人が徐々に増えてきているなという実感を持っているのです。ですから、今後どう場所をつくるのか、どんなきかけを与えてやるかということ、具体的に考えていくのが私たちの仕事じゃないかなという気がします。

【山下会長】

ありがとうございます。支え合いをする活動の拠点などは、それぞれ個人の持ち出しということだけではなくて、その基盤として何か用意できないかってことと、そのきかけ、つまりいわゆる活動を担おうと思っている方々が集まって学ぶ機会だとか、あるいはその活動の中心的な役割を担う人のサポート自体をする仕組みをつくらないと定着しないっていう、そういうことだと思いますね。ほかございますか。

【福田委員】

先ほど、人と人とのつながり、防災活動、あと身近な地域で気軽に相談できる窓口という3つの素案を言っただき、結局はコミュニティづくりなのかなというふうな解釈を今しています。その中で防災活動が福祉計画の中で重点項目として挙がるのが、自分的にはピンときませんでした。もちろん防災活動ってすごく大切ではあるのですが、福祉計画の中であれば、比較のお体が小さかったり不自由だったりという方を対象とした、防災計画に絞った形の計画にするのか、ひとくくりに防災活動といわれても、私はピンとこなかったのが正直なところです。あと、身近な地域で気軽に相談できる窓口というところについては、場所を提供することはもちろん大切ではあると思うのですが、そこで相談できる人をどのようにして配置していくかっていうところは、具体的な話まで詰めていかないと、結局場所があっけみんなが集まってコミュニティつくって、でも場所があっても何をやるのかが明確じゃないとなると、何も生まれてこないと思います。例えば、生活の相談とかを、窓口でしたい方に関しては、専門的な方を定期的に入れていく必要がありますが、今度は人に関するコストを考えていかないといけない。あと、人と人とのつながりというところなのですが、具体的にインターネットが普及してきているので、そういったソーシャルメディア的なところもうまく活用しながら、例えば足が不自由な方であったら、何かにつながっていけるような、仕組みづくりを、行政の方にも考えていっていただきたいです。必ずしもその場に行かないとつながれないってことになる、そこはすごく壁になってしまうと思うので、今の時代の技術を使った形のコミュニティづくりっていうのも含めて検討していただけるといいのかなと思いました。

【山下会長】

ありがとうございました。ほか、ございますか。

【中澤委員】

やはり、人と人とのつながりってというのは、今後いろいろ大変になっていくのかなっていう中で、やはり外国人問題っていうのをもう少ししっかり捉えて、漠然としているのではなくて、具体的にどういうふうにやっていけばいいのかっていうのを、全国いろんなところで今までにもきっと具体的に取り組んでいるところもあると思いますので、そういうところの取り組み方なんかを研究しながら対応策を考えていただきたいっていうのと、あとは先ほどもお話させていただいたのですが、世代間交流の中で、小学校、中学校、高校、あと大学も含めて、例えばの話、高齢者の施設に行き、いろんな人たちがいるのだからことを認識してもらいながら、そういう人たちへのアプローチの仕方みたいなのを若い頃から身に付けてもらおうと、そういうことをすることによって、社会に出てもなんのためらいもなく、そういうボランティアに入っていけるような人材をつくっていくと。そういうことを、まずはこの小さな、八千代市の中からつくっていくっていうのもよろしいのかなと思いました。もう1つは先ほども提案があったのですが、僕もコミュニティバスのことを考えたときに、八千代市の形っていうのを見ますと、実は南北にすごく長いんですね。その中でうろおっているのは京成線沿いと、東葉高速沿い、結局は南のほうだけなんですね。だからそれより北の部分っていうのは、場合によってはすごく遠くの、東北地方とか北海道地方なんかには匹敵するとは言いませんけど、そのぐらい不便なんじゃないかなと。そこを先ほどもお話にあったように、今までは高齢者も無理やり車を運転するという感じだったのが、今はそういうことができない時代にどんどんなっている中で、やはり行政が相当力を入れて取り組んで、コミュニティバスみたいなものを出していかなくちゃいけないのかな。アンケートを見ましたら、今まであったバスがなくなっちゃって困っているみたいな意見もあったわけですよ。そんなことしているのって逆に驚きました。だからそういうことも真摯に受け止めて、今後変えていかなくてはいけないのではないかなというふうに考えました。

【山下会長】

ほかございますか。

【吉垣委員】

高齢者の居場所づくり、これは大変な問題なのですが、八千代台でもグリーンヒルでプラットフォームっていうのをやっているのですよ。それは週2回、月曜と水曜に、高齢者もよし、あと子どももよしっていうことで、場所の提供はしていただいているんですけども、その移動の手段、要するにグリーンヒルも八千代台西のちょっと外れにあるもので、八千代台東5、6なんかでいくと、かなりの歩行時間、だいたい30分くらいかかる。それで夕食を提供しているもので、帰りが今の時間帯ですと、どうしても真っ暗になっちゃうのですね。そういう場合、その場所を提供できても、移動の手段がないとなかなか足が運べないのではないかなって懸念がありましたので、これはなんとかならないのかなって。私もボラン

ティアで週2回行っているのですが、その点は問題があって、果たして声かけて食事召し上がって送り届ける、そういうことはできませんので、あくまでも自己負担でなっちてしまおうと思うので。そういう点では高齢者施設は朝と夕方はバスで送迎やっておりますので、そのほかの時間帯で送迎をできればいいのではないかなと、私はそう思っているのですが、どうでしょうか。これ、あくまでも施設側との交渉ではあるのですが。以上です。

【山下会長】

今のお話は社会福祉法人の広域的な取り組みというのが法改正で求められていて、社会福祉法人が率先して、持っている車等で空いている時間に移動に使うっていう取り組みが進んだりしておりますから、地域福祉計画は社会福祉法人の広域的な取り組みを促進する、みたいなことを書きつつ、ここでは地域福祉活動計画のほうでそうしたことを推進するための仕組みをつくるとか、そういうような落ちつけどころがあるかと思います。移動の話は、地域包括ケアの生活基盤支援体制整備のほうでも、いろんな自治体レベルで散々議論されているのですが、これは公共交通システムをなんとかしようっていうふうに議論するのか、公共交通システムが実質上、経営上破綻してしまっただけで入れないときに、行政が、いわゆる市民が税金を使ってそうした仕組みをつくってくださってというふうなところまでいく事項なのか、そうではなくて地域福祉を進めるための移動の問題についてどうやって解決するかっていう、もう少し議論の仕方を変えていかないと、行政の事務方のほうでできませんって言って終わっちゃうので、そこをちょっと工夫しなきゃいけないことにはなりません。その検討を進めていくってことを書くみたいなこともありかもしれない。つまり、地域福祉計画、八千代市で初めてつくるとして、先ほど委員の方からのご発言もあったように、まだ町内連携が八千代市の中で取れているかよくわからなくて、確かに事務方も忙しいから、この会議に全員来られないだろうし、議事録をご覧になって共有されることになろうかと思うのですが、そのいわゆる具体的なテーマとそれに関連する部署っていうものが、どうやって行政と私たちとで意見交換できるかって仕組みもつくんなきゃいけないし、5年、10年先のことを考えて進めることだと。いろいろなご意見の可能性を残しながらご意見を伺うことがいいと思っております。ほかございますか。

【栗根委員】

コミュニティバスの件が出ましたけども、自治会連合会の7地区あるのですが、一昨年の暮れにコミュニティバスを復活させるっていうことで、その経路を求められて提出しました。昨年10月頃にもう一度見直すということで、市のほうはコンパクトカーを走らせる以外に何かないかということで、例えばタクシーの利用とかとそういったものを補助するとか、そういったものも考えているので、もうちょっと時間くれっていう話になっていまして。今年になってどういうふうな動きをするか注目しているのですが、今のところは市のほうとしてもバスを動かせようという頭はあるのですが、ですから、その計画の中では、

1週間に1度だけ走らせるっていうようなことを提案されたのですが、それでは駄目だろうというようなことで。まあ、見直すということなので、この福祉計画の中に福祉のためと盛り込んでいけば、早期に何とかできるのではないかというふうには思います。それと、防災のことが出ましたけども、1月22日に八千代市自治会連合会と八千代警察と市とで、3者で協定を結ぶことになりました。平成22年にその協定はできているのですが、あまり活用されてないということで、今度は八千代市も含めて協定を結んで、防災、防犯等4つの柱を重点的に求めて、警察、八千代市の情報を自治会連合会のネットワークを使って情報発信する。自治会からの情報も市と警察に上げるっていうよう結ぶっていうことで、再度協定書を結びます。協定式を警察のほうで行うということになっていますので、そういったことが福祉計画の中にも、そのネットワークを通じてなんとか含めればいいかなというふうには思っております。以上です。

【山下会長】

ほかございますか。それではお時間になってしまいました、ご発言されてない方、お一言ずつ。

【唐澤委員】

この間のシンポジウムに出られなかったのですが、ちょっと発言ができなかったのですが、自分の住んでいるところではいろいろ試みがありまして、例えば今の防災計画でも総務省と内閣府とURと八千代市と団地防災連合会と支会と、あと民生委員が組んで、会議会つくりまして、実際に防災で階段から助けるとかっていう実際の訓練をしております。それと私は障害者のほうもやっております、20年もなるのですが、障害者が地域で安心して暮らせる街づくりということで、とにかく地域の方と交流するというので、年2回バス旅行したり、障害者が積極的にできることで参加する、あと給食なんか自分たちができるものはするというので、障害者だからといって受ける立場じゃなくて提供する立場にもなっておりますので、そういう活動することによって、自分たちに障害があっても、悲しくない社会をつくりたいわけ。障害になったからって悲しんで一步も外に出ないのではなくて、悲しんでも、これはこうすればいいんじゃないのって地域の人が、今もそういうふうにして支えてくれているんですね。だから、もう障害になったから私は駄目なのだっていう社会じゃなくて、皆さんが障害になっても暮らせる地域づくりということで今、私自身もやっております。それとコミュニティバスなのですが、JS（URサポート会社）ってところがあるのですが、米本団地内の銀行が撤退しちゃって空いちゃったのですよ。そこを何にしようかということで去年、試みにカフェをやったり、体操をやったり、内職をやったり、そういうのをやってみて、高齢者も働ける場所をつくったらいいんじゃないかということで、内職をみんなでわずかですがちょっと稼ごうじゃないかって。それでカフェがありますので、そこでお茶を飲んだり、それで体操もやったりって、そういうのを目指してい

るのですね。それで、中のコミュニティバスっていうのが電気自動車をJ Sに持ってきてもらって、電気自動車は遊歩道が広いものですから、それで何キロも出ないのですけども。それで買い物に行ったらどうかという、ちょっと変わりつつある活動をしているのです。そんなところですよ。

【周郷副会長】

民生委員なのですけれども、まず安否確認というのは、やはり決められた方しか訪問できないのですけども、決まったときではなくて、やはり一人暮らしのところに、いかがでしょうかっていうような感じで訪問する形で、安否確認をしております。それから先ほど、手挙げがほとんどない高齢者は大勢いるのだけれども、手挙げしてくれないのでどこを助けたら、誰を助けたらいいかわかりませんっていうのがありましたけれども、やはり今後、大勢の方に手挙げしていただいて、高齢者をもっともって皆さんで見守ってあげられるようなことをしていけたらいいかなと思っております。それにはやはり、それぞれが手を挙げてくれないと訪問もできないし、お邪魔することもできないので、その辺はちょっとどのようにしたらいいかな、どのような方法をしたらいいかなと思っております。それと、先ほど交通の便のことだったのですけども、北のほうというのは、私の住まいも睦地区なので、一番北のほうで、本当に交通の便は悪いのです。ただ、今施設のほうでバスを出していただいて、先ほど先生おっしゃったように月に何回か曜日と日にちを決めまして、お買い物ツアーみたいなことをやっていただいていることがあります。それは秀明大学のところ、大学町っていうところなのですが、そこで今、一時的にやっております。以上です。

【山下会長】

ということで時間になってしまいました。この地域福祉計画、八千代市で初めてつくるにあたって、限られた会議ではありますが、今日はいろいろなアンケートですとか、市民の意見ですとか、委員の方からのご意見、たくさんいただきましたので、こちらの整理をされて、骨子案づくりをし、次回、来月またお会いすることになると思いますが、協議する時間をとればと思います。ここで事務局のほうにお戻ししてよろしいですか。

【末友主査】

いろいろなご意見、ありがとうございました。本日お話しいただいた内容を含めまして、骨子案を作成させていただきたいと考えております。また、庁内調整会議というのがございますので、先ほど委員さんのほうからも庁内の連携という部分をお話しいただきましたので、お話しした内容とかも報告しながら同時に進めさせていただきたいと思っております。事務局のほうから2点ほど連絡させていただきます。次回の協議会につきましては、令和2年2月26日水曜日となっております。9時半ということで、また早いお時間になるのですけれども、よろしく願いいたします。詳細が決まりましたら、ご案内をさせていただきます。

いと思います。また2点目につきましては、報償費のお支払いにつきましては、1月下旬頃にお支払いの予定をさせていただいておりますので、よろしく願いいたします。事務局からは以上になります。

【山下会長】

それでは以上をもちまして、第2回八千代市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定・推進協議会を閉会いたします。どうもありがとうございました。